

OB通信

鳳 羽

復刊第1号

= 2007年12月 =

山口大学ワンダーフォーゲル部OB会

目次

第1章OB会より	1
1.1 新しい世代へ.....	1
1.2 たかがOB会、されどOB会(役員退任に当り足跡を振り返って).....	2
1.3 会長就任に当たって.....	5
1.4 2007年OB総会の報告.....	6
1.5 2006年会計報告.....	9
1.6 2006年監査報告.....	10
1.7 2007年夏山山行(西穂独標)報告並びに2008年の取組みについて.....	11
第2章OB会員の皆様へ	13
2.1 お知らせ.....	13
2.2 2006年会計報告.....	13
2.3 OB会費納入について.....	13
2.4 入会、脱会について.....	13
第3章現役活動報告-本部-	15
3.1 キャンパ金の御礼.....	15
3.2 執行部近況報告.....	15
3.3 夏合宿結果報告.....	15
3.4 アフター結果報告.....	18
3.5 春合宿紹介.....	18
第4章現役活動報告-工学部-	19
4.1 執行部近況報告.....	19
4.2 夏合宿結果報告in北アルプス.....	19
4.3 春合宿紹介.....	21
第5章その他	23
5.1 OB会ホームページ.....	23
5.2 Y.U.W.V. ホームページ.....	23
5.3 編集後記.....	23

第1章

OB 会より

1.1 新しい世代へ

長 末 國 弘 司

2007年のOB総会及び懇親会を11月10日と11日に山口市徳地の国立山口徳地少年自然の家で開催し、80人のOB会員の参加を頂いて盛会のうちに終了しました。また本年は家族参加型とし、19人のご家族も参加され、喜んでいただいたことは、今後の一つの参考になるかと思えます。参加者の皆さん、ありがとうございます。また、山本充二君をはじめとする山口の世話人の皆さんにも、改めて感謝の意を表したいと思えます。

山口という地の利を得て11人の現役部員諸君の協力もあり、成功の原動力の一つになったかと考えています。

総会では、懸案であった会の名称を「鳳副会」と正式に決定しました。これを契機に新しいOB会が切り開かれれば、と願っています。会の名称決定に併せて会旗とワッペンも決まりました。体外的な体裁は整いつつあるわけですが、これからは内なる体勢の充実を目指して、会員諸君とともに努力していきたいと思えます。

今年は会長・副会長の任期満了に当たり、総会で新しい会長を選出いたしました。2008年1月からの新会長には、山本充二君（昭和47年＝

1972年＝経済卒）が就任します。新しい会長の下に、OB会発展の為に会員諸君の更なるご協力をお願いいたします。

山本君はご承知のように当初から監査役をお願いしたのを始め、2度の亘る山口総会を取り仕切って頂き、その力量は証明済みです。

私の在任中は、会の組織を整え固める事に手一杯だった感がありますが、これからはまた違った新しいOB会へと発展して行くであろうことを信じ、願って止みません。

私と木山副会長がOB会を預かってからの経緯は、木山君が詳しく述べていますので、重複を避けて割愛させていただきます。ただ、私自身の中でのワングル活動にもこれで一区切りついた感があり、長い歴史をしみじみと感じています。

もう儼の生えたような時代の話ですが、私が大学に入ったのが昭和36年。大学では当初山岳部に入りかけたのですが、当時はいわゆる「鉄の時代」で全国的に岩壁の開拓が盛んな時代でした。冬山は「極地方式」でキャンプを伸ばし、ピークを落とす方式です。岩も雪も、それはそれで興味のあることですが、もっと幅広く自然に親しみたいとの欲求の方が勝り、ワングルの旗揚げに加わることとなりました。ただ残念なことに在学中は個人的な理由から思うような活動が出来ず、宿題を抱えての卒業となりました。卒業後に本格的な山行が始まったのは、自然の成り行きでした。しか

しこれも新聞社という変則的な時間勤務、転勤の多い職場にあってはなかなか山仲間を作ることが出来ず、数少ない仲間と時折山行を共にする程度で、必然的に単独行の世界に入りました。仕事を終えてから夜行列車に飛び乗り、ラッシュ登山をしてまた夜行で帰りその足で職場へ、といった生活を繰り返したことが、懐かしくなります。

勤務地がほとんど九州であつたことから、時には山口に帰り、正月のワングル部員の追い出しコンパに開かれていたOB会（直近の卒業生や山口近辺在住のOBが数名出席するだけでしたが）に何回か参加させていただきました。当時からOB会を何とかしなくてはならないなどの思いはあったのですが、日常の仕事に追われ、また山口の地から離れていることを理由に、年月が過ぎました。この間、OB会は現役の直前主将（4年生）に任せ切りの状態でした。歴代主将はよくやってくれたと、改めて感謝しています。

14年前、私は急性心筋梗塞で倒れ、三途の川に片足を入れたところで引き戻されました。術後の病棟のベッドの上で「もう一度山に行きたい」との思いが日増しに募り、これがリハビリを乗り切る力になったと思っています。著しいペースダウンは余儀なくされていますが、何とか山歩きを楽しめるのも、ワングルの延長線上にあったからだと感じています。

7年前、ワングルの建て直し案が出て会長就任を依頼されたとき、引き受ける決心をしたのもこれら過去の経緯が作用したのだと思います。ちょうど木山君が早めのリタイアをして山口に帰っていましたので、副会長は彼を措いてはいないと半ば強引に頼み、引き受けて頂きました。以後の経緯は彼の述べるところです。

OB会は(当然ワングル部も)間もなく半世紀の歴史を刻もうとしています。これからのOB会を担って頂く諸君には遠い時代の話と思われたでしょうが、OB会は、山大ワングルはそれだけの

歴史の上に立っていることを噛み締めて頂きたいと思います。

私はこれからは1会員として関わっていきませんが、今後もこれまで通りに親しくお付き合い頂ながら会の発展に協力できればと願っています。在任中のご協力に、厚い感謝を捧げます。

1.2 たかがOB会、されどOB会

(役員退任に当り足跡を振り返って)

副会長 木山克彦

この度OB会役員を次の世代にバトンタッチする事になりました。

混沌の中からの新生OB会構築の途でしたが、随所の不行き届きにも拘らず、会員の皆様の多大なご協力と深いご理解を頂き、無事この日を迎えられる事を先ず持って心より御礼申し上げます。

OB会は【想いを共有する者の集い】との自分勝手な解釈を理由に少々の甘えは許されるとは言え、浅学非才の身からの数々の非礼を暖かく寛容に受け流して下さり、ここにお許しを請いながら重ねて厚く御礼申し上げます。

新役員の方々へ引き継ぐに当り、思い出の幾つかを織り込みながら辿ったプロセスを振り返り、役員退任のご挨拶と致したいと思います。

思い起こせばOB会の副会長を引き受けて欲しいとの依頼を受けたのは7年前の入院中の事でした。OB総会を前に祖母一傾縦走の折、土砂降りの為急遽縦走は諦めて黒金尾根を下る途中、近道だと藪を斜めに歩いて足を滑らせ、左足の踝辺りで枯れ木を折った時のように【ポッキン】と乾いた音がした。

過去に【ポッキンの経験】は無い事から俄かに骨折とは思わなかった。

暫くすると靴が脱ぎ難い程左足は膨れ上がり、外側に体重が掛った時は腰まで電撃的な痛みが走り（脾骨骨折だったので当然だと後日判明）、数分間は息も出来ない有様で、【こりゃー単なる捻挫じゃないなあー…】と、不安や焦りや無念さが……。

九州には多くの岳友や学友が住まれている事だし【祖母山で遭難！雨中の高齢者】との見出しが出て【〇〇の●●べえが無理な下山】と、その道のプロらしく面白可笑しい脚色報道で公衆に晒されるのを避ける為、追い越して行った何人かの助言や薦めを他所に救援を求める気は全く無かった。

左足を只管庇いながら尻制動をしたり這ったりして、雨中のビバークを挟み 23 時間掛けて必死の思いで尾平の駐車場まで下り、山口に帰り着いたのは骨折から一日半後、夕方遅くになってであった。

直ちに行った夜間救急診療所で骨折との診断が確定し、翌日には身の回りの準備を整え入院した。急遽欠席した OB 総会で会長は末国さんに決まり、ついでに副会長は木山に…との話が出て、その場の雰囲気(?)で決まっらしいのです。

(厳密に言うと本人は欠席なので“暫定的な決定”が正しい)

事務局同伴の末国新会長から総会時の概略を聞いた時は膝までギブス固定の惨めな姿で、未だ術後の痛みが伴う不自由な身が脳味噌や心の中までも不自由にし、結局入院中に副会長引き受けを了解した。

当時の記憶を微かに辿ると会費納入者は凡そ 120 名で、その会費でもって未納入者を含む全 OB550 ~ 560 名分の通信作成費、郵送費など一切の経費を賄わざるを得ない状態ですから、過去の残預金が少々有ったとは言え財務的破綻は火を見るより明らかでした。

OB 会は会費以外には何一つ財源は無く、この窮状から脱却し健全になる為には、会費納入と会員資格とを直接的にリンクさせる構想しか方法がないとの判断の元、次回の総会で提案、承認を受けた。

この事は全 OB に向けての趣旨説明と併せて入会確認（他でもなく会費の入金確認）のプロセスが必要である事から、住所不明者は各学部の同窓会事務局へ出向き直近の住所を教わり、掌握可能な範囲で漏れ無く OB 通信（数回に亘って）で徹底したのです。

結局本案の準備—総会承認までに 1 年間、その後の 2 年間は周知徹底を計る期間で、通算して 3 年間は OB 会再生への移行期だった事になります。前述の経緯を辿っての OB 会の財政の再生も然ることながら、OB 各位へ可能な限り公平性を保つ意味で、従来の山口市限定開催から脱皮し新たに導入した【全国持ち回り型開催】は、各地に居住の会員にとって参加しやすい環境を準備した事にもなり、その意義は大きかった様に思います。歳月の流れとは有り難い物で、その間活発化してきた OB 会の様子が徐々に伝わって OB 会員も増え、当然の如く良い方向へと歯車は回転し始めたのです。

又、将来の OB 会の絵姿もあって、武富さん、木村さんを中心に活発であった【東京（関東）地区】を【支部】にしては如何だろう？との呼び掛けに快い賛同をいただき、初回の【持ち回り型開催】は【東京（関東）支部設立記念総会】として開催するに至りました。

以後、翌年の山口市開催では参加者は 120 名（現役含む）近くにもなり、次いで福岡市開催（九州）、京都市開催（関西）となり、両地区とも当該地区の多くの会員が参集され、遠方からの参加者も駆けつけて盛会を極め、昨秋の東京（関東）支部引き受けの二回目の開催（つくば市）では野外炊飯を採用され、本年の山口では野外炊飯、家族同伴 OK のユニークな企画の元に二回目の開催、来年

の福岡市（九州）開催も二回目を快く引き受けて頂きました。

この様に【持ち回り型開催】は各地区の会員各位の献身的なご協力とご尽力の元に順調な軌道を辿り、その都度当該地区の会員の方々は元より遠隔地からも多数参加される盛況ぶりで今日に至っています。

願わくは、他地区から自発的に開催の話が持ち上がることを期待して止みません。

一方別途存在していた工学部 OB 会は、OB や現役を含めて工学部関係者にアンケートを実施した結果、統合する方が望ましいとの結論を得て合流し現在に至っています。

今や、OB 会は現役時代の面識ある者同士に限定された狭い範囲の交流ではなく、年代を超えた縦の繋がりや、老若男女を問わず深みや広がりが増してきたように見受けられますが、これは当方の臆目な一人よがりではなく、出席された会員の誰もが実感されている事ではないでしょうか？

常日頃から同窓会や OB 会は横の繋がりや縦の繋がりが縦横無尽に連続的に絡み合い、且つ永続してこそ意義が有るとの考えを持っていましたが、着実に萌芽してきた昨今を喜ばしく思っています。達人は【人との出会いを大切にする】と多くの場で見聞しますが、OB 会員のお一人おひとりが【人生の達人】になられ、より豊かな人生を享受されればと、切に願っています。

OB 会員数は再生着当初の予想を遥かに上回り、その活動も年々充実してきた今日の姿は、他でも無く偏に会員各位のご理解とご協力、そして【海よりも遥かに深く、山よりも遥かに高い共通の思い】が有ったからこそ成就されたものでしょう。山口大学に関連する OB 会の中でも此れほどまで結束が固く充実した OB 会は恐らく他に無いでしょうし、少なくとも自分は知りません。

月日も流れ、それなりにフレームが出来上がり、恥ずかしくない OB 会の姿に至るまでの道程を回顧しながら、次期役員の方々へ期待を込めながら筆をしたためています。

そうは言っても、前述したような移行期や初期段階にあっては、伝達方法が OB 通信だけの限られた媒体であった事や説明不足、表現の不味さも在って、一部真意が正しく伝わらない事から誤解や曲解があつたり齟齬を買つたりで、何回か情けない思いや辛い思いも有りましたが、【継続は力なり】の教えに習い【時を味方につけて】成熟してきた OB 会の姿に敬意を表しながら、会員の皆さんと共にその喜びを分かち合い、更には将来に亘り途切れること無く充実発展して行く事を願うところです。

先般、山口大学本部の課長と話す機会に恵まれました。

数年前に転勤で山口大学に赴任された方ですが、関連する外部団体と連携しながら望ましい結果を出している他大学の成功話を聞かせて貰いました。

独立行政法人として歩き始めた今、各大学は生き残りを掛けて鋭意努力の真っ只中にあるとの話も聞きました。

大学が一般社会と深く関わり合う事は、他大学での良い実例が示す如く益々重要な意味を持ち、同窓会や OB 会の存在等は大学にとっても学生個人にとっても大事な役割を担う様になるであろうとの話も伺いました。

“YUWV —OB 会” に直接当てはまる具体的な例では無いにせよ、そんな話を聞いての感触として、我々の知らぬ間に OB 会への期待や将来の在り方を問われている様にも思え、そんな時期が以外にも早く訪れるのかも知れません。

最後になりましたが、長い間多方面に亘ってご指

導、ご鞭撻、ご協力を賜りました事に加えて、旧知の方々とは言うまでも無く、新たに多くの方々との出会いにも恵まれ、心温まるお交わりを頂きました事、あらためて厚く御礼申し上げます。役員を辞し今後は1会員として関わってゆく事になりますが、従来通り親しくお付き合いの程を宜しくお願い申し上げます。

九拝

1.3 会長就任に当たって

S 4 7 卒 (経) 山本 充二

徳地の紅葉は例年より2週間遅れとの報に、まずは我が意を得たりとニンマリ、後は、ままならぬ天気だけ。“お天道様、頼みます！”…昨秋の山口徳地でのOB総会を前にしてのことです。会場確保の都合で、いささか季節外れで天候不順な時期での開催企画、悪天ならば台無しです。が、準備に携わってきたメンバーの祈りが通じたのか、当日は、天も味方し、OBやその家族、現役部員ら110人を超える参加者を得て、2007年総会・交流会をなんとか無事に終えることができました。

引き受けは、山口ならではのやり方だと、企画したもの、タイトなスケジュール、次から次への場所移動、片付けや飲酒の制約など、果たして喜んでもらえたかどうか。そんな不安を抱きながらも、一大行事を予定通り成し終えることができたのは、参加者各位の寛大なご協力のお陰と、世話人一同、改めて感謝申し上げます次第です。

加えて、これも山口ならではの事ですが、このたびの総会・交流会の開催に当たっては、現役部員に準備段階から当日の運営に至るまで、参加して貰いました。彼らの協力に感謝するとともに、山口在住OBとしては、現役部員との交流を、数年に一度の総会引き受け時だけで終わらせるよ

うなことではいけないな、と反省もしている次第です。

さて、先の総会では思いもよらぬ突然のご推挙で、会長職を担うことになりました。私に歴代会長さんのような識見や力量があるはずもなく、「OB会に新しい風を」と期待されても、力の及ばぬ事必至ですが、引き受けたからには、皆様のご意見もしっかり聞きながら、肩肘を張らずに、楽しみながら努めていきたいと思っています。

こういう輩ですので、会長就任に当たってこれといった所信は持ち合わせておりませんが、あえて申し上げるなら…

末国会長、木山副会長のご尽力により、会の組織や財政の基盤については、基本的な路線が敷かれておりますので、まずは、これに沿って会が持続発展するよう、会員の拡大や総会の巡回開催、事務局体制の確保などに努めていきたいと思っています。

今一つ、大変気になっているのが、現役部員が急速に減少していることです。

現在、全部員が11名、その内訳は、4年4名、3年3名、2年4名、1年1名です。

部員の獲得については、先のOB通信でも、西村主将があの手この手の勧誘活動をしているが集まらない、と報告しています。このまま推移すれば、数年後には、山口大学ワンダーフォーゲル部が消滅するという非常に深刻な事態です。創部以来、OB会創設以来の最大の危機とも言えます。OB会として、果たして何が出来るのか分かりませんが、我々の原点を失うようなことにならぬよう、何らかの手立てを講じていく必要があると思っています。

最後になりましたが、新しく役員になって頂いた方を報告、紹介します。

副会長：S 5 3 卒 (工) 田村伊正 氏

監 査：S 4 7 卒 (農) 池富士清 氏

S 5 2 卒 (経) 古谷真之介氏

これからの任期2年間、私共々どうかよろしくお願ひします。

1.7 2007 年夏山山行（西穂独標）報告

並びに2008 年の取組みについて

昭和40年卒 堺原直毅（関西地区）

■ 1. 2007 年夏山山行（試行）報告OB 会活動

の範囲拡大を意図し、山行の呼びかけを行いたい旨 末国会長、木山副会長（当時）に相談。内諾を得たことから関西地区長野氏と企画立案作業を開始しました。6月基本案提示（8月22日～24日平日利用 現地集合、解散 新穂高温泉ベース 5コース案） 会員への案内は堺原が個人的に依頼しましたので、連絡が十分行き渡っていなかったと思われま

す。参加者 末国、堺原（昭和40年卒） 吉永（42年） 長野（44年） 木村夫妻（46年）の6名。登山コースはロープウェイ利用、西穂独標の1コースで実施しました。前日の豪雨で天候、行動が心配されたが天候も回復し、5名 無事登頂。（ゆっくりペースで約7時間の行動）また長野氏の所属している「日本熊森協会」のトラスト地が付近にあり、当地の見学並びに同協会の自然保護活動について長野氏より説明もなされ有意義でした。宿の食事、露天風呂なども好評で適地ではないかと思われま

す。今回の企画に際して、現役組とリタイア組のどちらを主対象にするかが問題となりました。双方を同時に満足する企画は難しく、お互いが消化不

良になる恐れがありそうで現役組は地区での活動が合理的であり、リタイア組はそのメリットを生かした活動が良かろうとリタイア組主体の企画で見切り発車しました。（やれば何かわかるのでは？）

■ 2. 2008 年の取組みについて2008年も

山行を可能であれば複数回実施したいと考えています。現段階ではOB 会として公式活動の位置付は難しいのではないかと思います。実績を積み重ねて公式なものになればと願っています。そんな訳で全て「自己責任」で参加して頂くこととなりますのでお含み置き下さい。具体的提案は来春に案内したいと考えておりますが自分で登りたい山、山域などの希望、提案をお寄せ下さいますようお願い致します。

立地条件に恵まれた地域（海外含む）に勤務、在住の方にご協力をお願い出来たら楽しい有意義な活動が出来るのではと夢を膨らませています。

案内について HP への掲載等検討中ですが案内をご希望の方は堺原まで連絡願います。――

第2章

OB 会員の皆様へ

2.1 お知らせ

会費未納の場合は自然脱会となっております。
会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

納入状況につきましては、OB 名簿をご覧ください。なお2007 年まで納入で、2008 年が未納の方にのみ、振り込みをお願いする紙を同封しております。

2.2 2006 年会計報告

総会にて承認となりました。詳細につきましては前章に2006 年会計報告と監査報告を掲載しております。

2.3 OB 会費納入について

2008 年分OB 会費を納入されていない方はお手数ですが、郵便振込にて下記へ納入して下さいようお願い申し上げます。なお、2007 年分OB 会費が未納の方は自然脱会となっております。

口座記号番号01530-0-16050

加入者名山口大学ワンダーフォーゲル部

個人会員年会費2,000 円

夫婦会員年会費3,000 円

会費納入は上記の倍数で御支払い下さいますようお願い申し上げます。

2.4 入会、脱会について

初めて入会される方、再度入会される方は会費振込を意思表示とさせて頂いておりますので、お手数ですが、前記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。

会費未納の場合は、自然脱会となりますので、会費のお支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。

事務局より

第3章

現役活動報告-本部-

3.1 カンパ金の御礼

今回の山口でのOB総会において、OBの皆様方より109992円という大変多くのカンパ金を頂きました。古くなった装備を新しいもの買い替えようかと検討中です。たくさんのカンパ金、有難う御座いました。

本学47期主将 西村朋子
工学部45期主将 平村健勝

3.2 執行部近況報告

47期主将 西村朋子

現在、現役部員の数は、1回生1人、2回生2人、3回生1人、4回生3人の合計7人となっています。後期に入ってから、2回生が2人辞めてしまいましたが、行事等はしっかり行っております。今後も、1回生の部員の勧誘をしっかり続けていきたいと思っております。

今年の夏合宿は、前線の影響でずっと沈でほとんど登れず、残念な結果に終わりました。

アフターの富士山も、メンバーの怪我や、台風の影響で中止になってしまいました。11月に山口で行われたOB総会には、現役全員が参加しました。大勢のOBの方々と楽しい時間を過ごし、

また色々な話を聞くことができ、山口で開催されて良かったと実感しております。

また、11月23～25日の連休に、山口県秋吉台で中国合同ワンデリングを開催しました。主幹校は山口大学本学・工学部、山口県立大学でした。文字通り、中四合ワンは違って、中国地方の大学だけが集まる行事で、準備が大変でしたが、参加者が50人以上のまとまりのある合ワんになりました。

幹部としての最後の行事は、12月中旬に東鳳翻山で行う、忘年ワンデリングです。12月ということで、かなり寒い夜になりそうですが、お酒で心も体も温まるのではないかと思います。

1月で幹部交代ですが、振り返ってみて、幹部が私1人だったこともあり、行事をこなすことで精一杯で、部を盛り上げるといったことがなかなか難しかったように思います。しかし、昨年から特に強まってきた、他大学との仲や体育会の他の部との交流もあいかわらず続いており、一年間楽しくやってこれたと思っております。

現在は部員が減少している時期にありますが、来年は部員獲得の為、次期執行部を支えていきたいです。

3.3 夏合宿結果報告

PL 西村朋子

今回の夏合宿は、二次錬成をアゲインし、天候の関係でアゲインもエスケープとなってしまったので、本来6泊7日のところを3泊4日のコースカットで行いました。場所は北アルプスです。それでは夏合宿の報告を致します。

■ A P 1 8月25日 晴れ湯田温泉駅。差し

入れの方はおそらく少ないだろうと、寂しい出発を想像していたのですが、予想より多くの方に差し入れに来て頂きました。P-menはこの時には元気でしたが、出発して30分後にはもう皆疲れきっていました。というのも、新山口から京都までは新幹線で行く予定でしたが、本来快適なはずの新幹線の中は大変混雑しており、これなら鈍行の旅の方が楽だった…と肩身の狭い思いを抱いて過ごしました。

しかし、さらに悲劇が起きました。京都駅から新快速に乗って、敦賀へ向かうはずだったのですが、6人のP-menのうち、2人ずつ3ペアに分かれ、2ペアが違う電車に乗ってしまい、離れ離れになってしまうという事態になりました。なんとか無事合流でき、時間もあまりロスすることなく富山駅に着くことができました。

この日は富山駅のすぐ外でビバーク。人目になりましたが、案の定、夜、通りがかりのおじさんに声をかけられ、長いこと話してしまいました。

■ A P 2 8月26日 晴れ富山駅から電鉄富

山に乗り、有峰口まで。登山客で車内は埋め尽くされ、心強さを感じました。有峰口からはバスに乗って折立キャンプ場まで移動しました。折立までの登山者はあまり多くなく、途中、有峰湖の展

望台のような所で休憩をし、そこからは北アルプスの大自然の匂いが感じとれ、早く明日の山行がしたくなりました。

折立では登山者の車はたくさん並んでいましたが、キャンプをするのは私達と、もう一グループのみのような感じでした。

■ 1日目 8月27日 晴れ

折立キャンプ場	4:35 発	
1870. 6三角点	7:17 着	7:33 発
太郎平小屋	11:22 着	11:42 発
太郎兵衛平キャンプ場	12:00 着	

たくさんの差し入れ袋をザックの両脇にぶら下げ、詰め込み、いよいよ山行の開始です。暗いうちから登はじめ、ずっと、この日は登りしかないと行っていいくらい登って行きました。樹林帯を抜けると、アルプスに来たことを実感できる稜線を歩きました。この稜線も登りが多かったのですが、やはりいったん稜線に出ると重い荷物でへばっていたP-menの疲れを吹き飛ばしてくれました。1回生も初めてみる景色に感動していました。お花畑も広がっており、上の方は休むと少し寒かったように思います。

この日、途中、島根大学のワンゲルのグループに出会いました。知っている大学の人たちなので、アルプスの上で出会うのは不思議な感じでしたが、色々会話をしました。

太郎平小屋まで来ると、テン場の太郎兵衛平キャンプ場までは目と鼻の先です。キャンプ場は薬師峠のところにあり、テン場からは薬師岳が目前に見え、黒部五郎岳の辺りも見ることができたように思います。トイレがバイオトイレですごくきれいで、たくさんの色とりどりのテントも張っており、大賑わいでした。

タエッセンをとり、あまり時間もなかったのでトランプや読書もほとんどせず、就寝しました。

■ 2日目 8月28日 沈朝からすごい雨で

す。目覚めたら、雷がすごい音で鳴っており、時折、どこかに落ちる音がして、人生で初めて雷を怖いと思いました。アルプスでは雷の事故も頻繁に起こっているの、本当に恐怖でした。幸いだったのは、テン場が峠にあることで、ピーク付近にいたら確実にやられていたと思います。沈を決定し、昨日の疲れが残っていたので、P-menはシュラフに潜り込みました。

この日はずっと雨で、小雨が降ったりやんだりしていました。本部に連絡すると、前線がきているということだったので、今後の天候が危ぶまれました。

いつものように、沈の日はすることもないので、差し入れのお菓子やジュースを口に入れ、トランプや、読書を楽しみました。

■ 3日目 8月29日 沈

この日も朝から雨が降っていました。雲が厚くかかり、沈の決定を行いました。

さすがに沈が連続2日目ともなると暇で仕方ありませんでしたが、あいかわらずトランプや読書、話をしたりして過ごしました。テントを張っていた周りの登山客はどんどん少なくなりました。空腹にも耐え、下界でのおいしい食べ物の夢を見ました。

■ 4日目 8月30日 沈

いいかげん、雨がやんで欲しいという気持ちでいっぱいだったP-menは、沈を決定した時、すごくダルそうでした。前線の猛威は思った以上で、昨日と同じような天候でした。寝ることにも飽き、暇をいつものように過ごしました。なんとか明日晴れば、北ノ俣岳までピストンすることができるので、一つでもピークには行きたいという思いでいっぱいでした。

■ 5日目 8月31日 雨

太郎兵衛平キャンプ場	4:30 発	
太郎平小屋	4:53 着	5:08 発
1870.6三角点	7:20 着	7:35 発
折立キャンプ場	9:08 着	

朝起きてみると、雨が降っていました。4:00にエスケープが決定し、合宿はもう折立に戻るのみです。小雨が降り続く中、テン場を急いで撤収して太郎平小屋へ向かいました。土産物も誰も買わず、先を急ぎました。雨で地面は滑りやすくなっており、石が転がった急な斜面をこけながら、景色もほとんど見ずに、ずんずん下りていきました。1日目の登りのきつい思いをすっかり忘れ、下りの歩きにくさに心を持っていかれました。

1日目と比べ、コースタイムはかなり短くなりましたが、いいペースで進めたように思います。P-menは沈で疲れきっていました。

無事、折立キャンプ場まで戻ることができ、バスを待ち、富山まで戻りました。そして、疲れきった体とともに、長野県松本市のあがたの森に到着しました。

今回の合宿では、毎年合宿でエスケープする要因になっている台風に注意しすぎ、前線という天候予測を前々からあまり調べたりしていなかった事によって、結果的にエスケープをする事になってしまいました。天気の長期的な予測はやはり難しく、合宿を行う場合は、特に気をつけ、先読みしなければならぬということは分かっていたのですが、やはりその辺の判断は難しいと感じました。北アルプスの自然をもっとP-menには体感して欲しかったので、とても残念ですし、申し訳なく思います。合宿の時期を早めるなどして、夏合宿が成功できるように、来年以降立てる人には、対応策を考えてもらいたいと思います。最後に、今回の合宿を行うにあたって、本部や安対をしてくださった先輩方、差し入れに来てく

ださった方々、色々ご迷惑をおかけし、また自分の未熟さも感じました。
ありがとうございました。

3.4 アフター結果報告

主将 西村 朋子

予定では夏合宿が終わってから、工学部とアフターに出発する予定でした。しかし、工学部の一人が夏合宿で怪我をしまい、アフターに行くことができないということで、条件等の面からと、台風の接近にともないアフターは中止になりました。富士山に行く予定でしたが、またの機会があれば行きたいと思います。以上、簡単にご報告させて戴きます。

3.5 春合宿紹介

PL 松村 将太

この度、春合宿におきましてPLを務めさせて頂く松村将太です。今年の春合宿は沖縄でサイクリングをする予定です。長い間やっていないということで不安なところもありますが、皆で協力して良い合宿にしていきたいです。

また、普段とは違うことをするので山行とは違った感動、楽しさを体験できれば良いと思っています。

■ 1日目 1日目は中城城跡に行きます。中城城は屋宜港から2kmほど離れたところにあり、

石垣に立つと、東に中城湾、西に東支那海を望み、勝連半島、知念半島、さらには周囲の洋上の島々まで見渡すことができる眺望のすばらしいところ
です。

■ 2日目 2日目はさとうきびとパイン畑が広がる屋我地島に行き、また沖縄八景にも選ばれている嵐山展望所に行きます。展望所ではオキナブルーの海や島々を見渡すことができ、さぞきれいな所だと思います。

■ 3日目 3日目は沖縄県指定天然記念物に指定されている万座毛に行きます。イソノギクをはじめ、多くの海岸性植物が見られ、また沖縄でもここだけに見られる特殊な植物がいくつも生育することが知られており、隆起サンゴ礁の断崖に打ちよせる荒波などとともに雄大な美しさを見せてくれます。

■ 4日目 最終日の4日目は残波岬に行きます。残波岬は沖縄本島読谷村の北端に突き出た岬で高さ30mの断崖が2kmに渡って続いており、雄大な景観が広がっています。そして海沿いを進み那覇市に着けば3泊4日の合宿は終了です。

PLとしてまだまだ至らない所はありますが、全員が楽しみ、そして合宿を安全に行えるよう頑張りたいと思っています。また合宿を通じて一回り成長し、多くの思い出を作り、これからの人生の糧にしていきたいです。

第4章

現役活動報告-工学部-

4.1 執行部近況報告

45期主将平村 健勝

工学部では、現在2回生1名、3回生2名、4回生1名の4名の現役部員と、1名の在学OBで活動しています。

先日は、本学と県立大学と合同で中国合同ワンデリングの主幹校としてイベントの企画運営を行いました。私はBブロックのBLとして、いかにして参加者を楽しませるかを念頭において一生懸命取り組みました。場を賑やかにさせることが苦手な私にとっては想像していた以上に難しく、後悔している面も多くありますが、参加者から「中合に来てよかった！」という声を聞くと心から嬉しくなります。

夏合宿は、北アルプスで、3泊4日の中房温泉～燕岳～常念岳～蝶ヶ岳～上高地というコースで行う予定でしたが、雨のため松本で沈が続き、1泊2日で中房温泉～燕岳のピストンを行いました。詳細は「夏合宿結果報告」をご覧ください。春合宿については、2年が1人のため本学と合同でサイクリング合宿を行うと聞いています。こちらも詳しい事は春合宿の欄をご覧ください。

恒例の「萩～宇部80km 耐久徒歩」は、前述の中国合同ワンデリングのため、企画・実施する時間が作れず、また、宇部高専も含めた部員不足のため、今年は開催を取りやめました。来年実施するかどうかは次期執行部に任せる意向です

4.2 夏合宿結果報告in 北アルプス

主将 平村 健勝

夏合宿でPLを務めさせて頂いた、工学部知能情報工学科3年の平村です。当初、3泊4日で中房温泉～燕岳～常念岳～蝶ヶ岳～上高地のコースで行う予定で準備を進めてまいりました。しかし、松本に着いてから長い間雨のため沈が続き、晴れ間を狙って1泊2日で中房温泉～燕岳のピストンを行いました。

私としても、1年の時は台風のため登山口でエスケープ。2年の時は交通事故で合宿自体に参加できず、といった結果だったので、3年にして初めてのアルプス登山で、絶対に成功させてやる！という意気込みで計画しました。

■8月27日 AP1 (晴れ) 前日までに完

璧に用意を済ませ、常盤駅では2名のOBに見送られ、早朝に宇部を出発する。この時まで、合宿が悪天に見舞われることなど知るすべもなく、人生初のアルプス登山への憧れと希望を胸に、まる1日かけて松本へ。長旅の間、心は好奇心に満ち溢れ、ワクワクドキドキである。

日付が変わろうとしている頃、やっと松本に到着。天気図をチェックする…………あれ？おかしい。昨日まではなかったはずの停滞前線が現れている！しかも日本列島全体を覆っている。慌てて週間天気予報を確認する。だが、週間天気予報に

は、本来「太陽」や「雲」などの様々な種類の絵文字が表示されているはずの部分が、なんと1週間分全部「青い傘」のマークだけになっている。

P-men 全員愕然とする。もうダメだ。

■ 8月28日 1日目 (曇りのち雨) 松本駅に長居することができないので、早くもあがたの森生活がスタートする。移動中に私物のウエストポーチが壊れる。よくないことは続くものだ。エサをまいたらハトがやってきた。楽しみが1つ増えた。だが油断は禁物。ザックにフンをかけられた。「絶望のとなりにはいつでも希望がある」、そう信じて待つことにする。

■ 8月29日 2日目 (雨) たとえ明日は曇りの予報でも出発することはできない。明後日が雨なら下山できなくなるからだ。

■ 8月30日 3日目 (雨) 天気は良くないが、小雨の降る中、松本城や商店街など松本市内を観光する。

■ 8月31日 4日目 (雨) 今日も雨。ところが、明日どうやら出発できそうだ、ということが判明！さっそく用意を始める。

■ 9月1日 5日目 (晴れ)

中房温泉	9:08	発
第1ベンチ	9:35	着 9:50 発
第3ベンチ	10:57	着 10:57 発
富士見ベンチ	11:50	着 12:25 発
合戦小屋	12:57	着 13:12 発
合戦沢の頭	13:33	着 13:38 発
燕山荘	14:28	着

待ってました！若干曇り気味だが、そんなの関係ねえ。やっと出発できる！！
電車で穂高駅へ。そこから、バスに乗り換えて1時間くらいで中房温泉に到着。燕岳へ至る合戦

尾根は北アルプス三大急登の1つ。予想以上に疲れ、登り始めるや否や登頂できるかどうか不安になる。

登山道には程よいところでベンチが設置されており、大変よい。第1ベンチ、第2ベンチ、第3ベンチ、の次は第4ベンチではなく富士見ベンチ。「富士見ベンチ」なのに地理的にも富士山は見えないはず。代わり？に有明岳や穂高の市街地が見えた。ここで昼エッセン。バームクーヘンとクッキーとチーズと魚肉ソーセージ。これでも用意した昼エッセンの中で、一番豪華な昼エッセンを選びすぐって持ってきたつもりだ。

1時間ほど歩くと、合戦小屋へ到着。8分割されたスイカが有名な小屋である。小雨が降り出したので焦るも、すぐ止んだのでひと安心。だんだんと登りが穏やかになりつつある。しかし、ガスも濃くなりつつあるので、ペースを上げながら燕山荘へ。合戦沢の頭まで来ると森林限界に到り、ハイマツの中を進む。高山植物のお花畑も見える。

燕山荘へ到着する。しばし疲れを取って燕岳へ。すごい。燕岳はまさに「雄大」であった。岩場を通して頂上へ。頂上からは大天井岳へと続く縦走路の先に槍ヶ岳が見える。途中、ブロッケン現象を体験した。スペシャルサービスだ。しかし感動というよりは変な気分だった。

燕山荘へ戻る。タエッセン。疲労困ぱいの上に寒いので食べてすぐ、「オヤスミー」。

■ 9月2日 6日目 (曇り)

燕山荘	6:08	発
第3ベンチ	6:48	着 7:03 発
第1ベンチ	7:48	着 8:10 発
中房温泉	9:34	着

燕山荘を6時に出発。来た道を引き返してさくさくと下山する。登りのきつさがまるで嘘であるかのように、あっという間に中房温泉へ。温泉に入

ってから松本へ。合宿終了。こうして私の3年目の挑戦は終わったのだ。

合宿の期間としては短かったものの、P-men 全員がアルプス登山の経験がなかったため、「とにかく行きたい」という気持ちで、少しでもアルプス登山がどういうものかわかっただけでも大きな収穫で、満足しています。しかしながら、まだまだお腹いっぱいとは言えないので、来年計画する後輩にはもっと長いコースでアルプスの自然を満喫して欲しいです。もちろんその前に、来年は天気が良くなってくれることを祈ります。

最後に、ご指導くださった先輩方、協力してくれたP-men 達に厚くお礼申し上げます。

4.3 春合宿紹介

岡川達也

今回の春合宿は、人数の都合上本学と合同で行うことになりました。春合宿の内容は本学の所を参照して下さい。

第 5 章

その他

5.1 OB 会ホームページ

鳳翺会のホームページをご紹介します。

鳳翺会ホームページ URL

<http://houben-kai.sakura.ne.jp/>

5.2 Y.U.W.V. ホームページ

山口大学ワンダーフォーゲル部のホームページをご紹介します。

Y.U.W.V. ホームページURL

<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tabidori/>

5.3 編集後記

先日、学長杯駅伝大会が行われました。現役の人数が少なく、サイクリング部と合同で出場しましたが、サイクリング部には負けじと自主トレに励んでいる姿を見かけ嬉しく思いました。結果は 1 2 位とまあまあでした。来年はワンゲルだけで組めることを願っています。私事ですが、私も消防に受かったので、そろそろ体力作りに励もうかと思えます。

このOB通信の発行で事務局の勤めも終わり、

ほっとしております。1 年間事務局を務めてきま

したが、通信の発行時期が実験とかぶったこともあり、ばたばたすることがありました。やはり、理系ではなかなか大変だと感じました。

今年もLATEXを使った文章を作りました。例

年この形でやってきてますが、レポートもWord

などを使うことが多く、最初は大変だと思いま

す。自分も事務局になって勉強しましたが、C言

語に慣れていないと大変なので、次の事務局をす

る人は難しいようならどちらでやっても良いかな

と思います。見た目はこちらの方が綺麗ですし、

なにごともしゃべってみるものだと思うので、また

じっくり考えていって欲しいと思います。

編集 田中 歩希